

EMC事業通信

2025-2026

西日本区 会員推移 現状報告

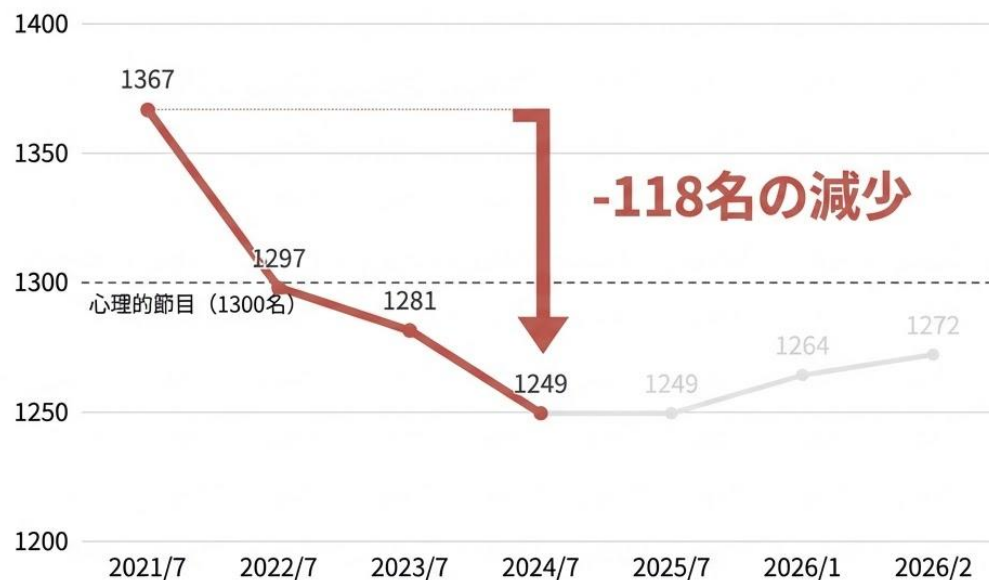
回復の兆し そして 成長トレンドへ

WE LOVE WEST REGION

2026.02.11
EMC事業主任
久保田雅彦〈京都グローバル〉

2023年度までは会員減少がトレンドだった

フェーズ1：組織規模の縮小傾向 (2021-2024)



2021年7月の1367名から、
2024年7月の1249名まで一
貫して減少。

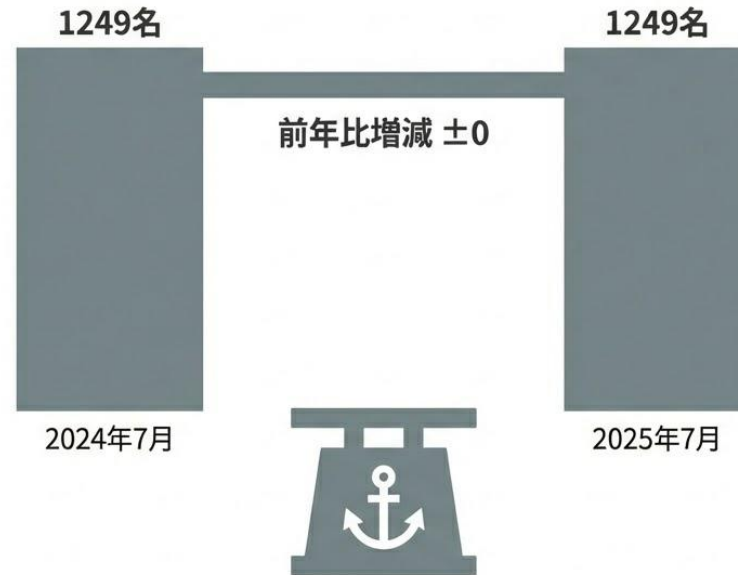
特に2021年から2022年
にかけて最大の落ち込み（
-70名）を記録。

この3年間は、組織にとって
の「試練の期間」であった
と言える。

会員減少がトレンド

2024年度は減少トレンドが下げ止る！！

フェーズ2：減少の停止と基盤の安定化 (2024-2025)

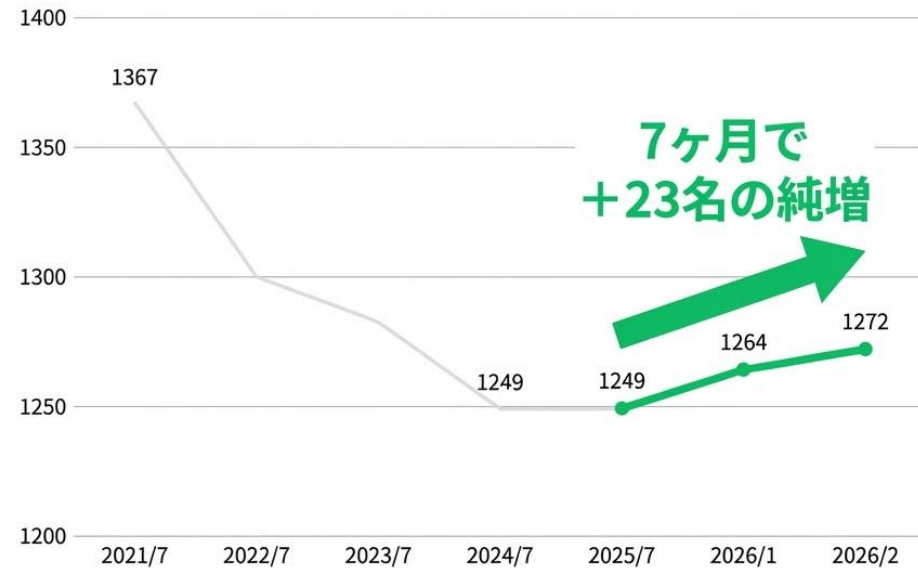


数年続いた減少トレンドが、この1年間で完全に「下げ止まり」を見せた。

ついに会員減少は下げ止まりをみせる

2025年度は念願のV字回復のフェーズに 純増23名を達成

フェーズ3：V字回復の兆しと成長軌道（2026年～）



2025年7月（1249名）を底値とし、明確な上昇トレンドへ移行。2026年1月時点で1264名、2月には1272名へと回復。長期間の減少フェーズを脱し、再成長フェーズに入ったことがデータにより裏付けられている。

そして西日本区の成長トレンドが始まろうとしている！！

エグゼクティブサマリー：2025年度前期 V字回復の兆しあり

前期半年報 1249名
後期半年報 1264名

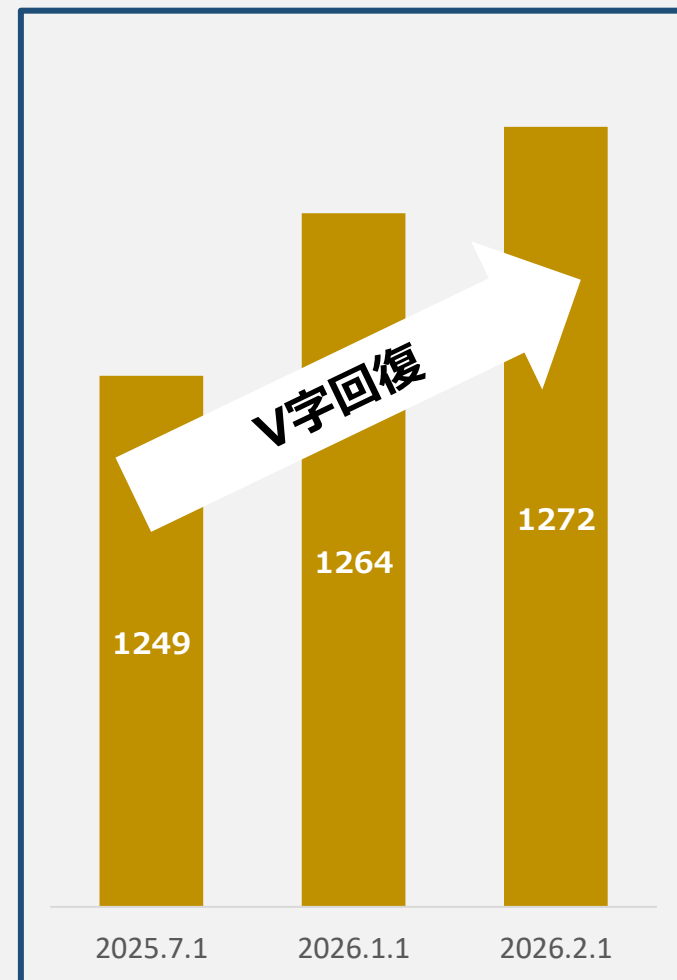


2026年1月 8名純増
2026年2月 ? 名純増
2026年3月 ? 名純増
2026年4月 ? 名純増
2026年5月 ? 名純増
2026年6月 ? 名純増

半期純増15名

2025年度上半期
・京都部 12名純増
・びわこ部 5名純増
・九州部 4名純増

念願の西日本区V字回復
に期待が膨らむ！



2025年度 上半期会員増強ランキング〈純増〉

GOLD

1位 純増4名

- 滋賀蒲生野
- 京都トップス
- 京都グローバル

SILVER

2位 純増3名

- 長浜クラブ

BRONZE

3位 純増2名

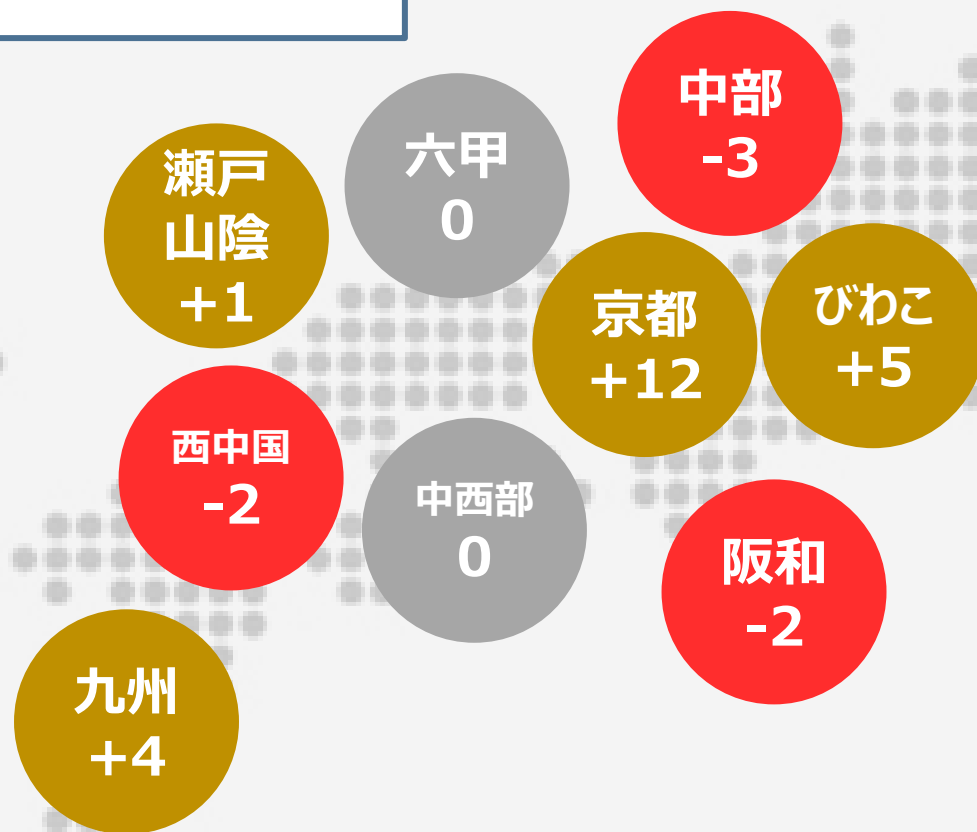
- 京都クラブ
- 京都トゥービー
- 大阪西
- 福岡中央
- 熊本Nスピリット

上記9クラブで**合計25名の純増**
西日本区に大きく貢献

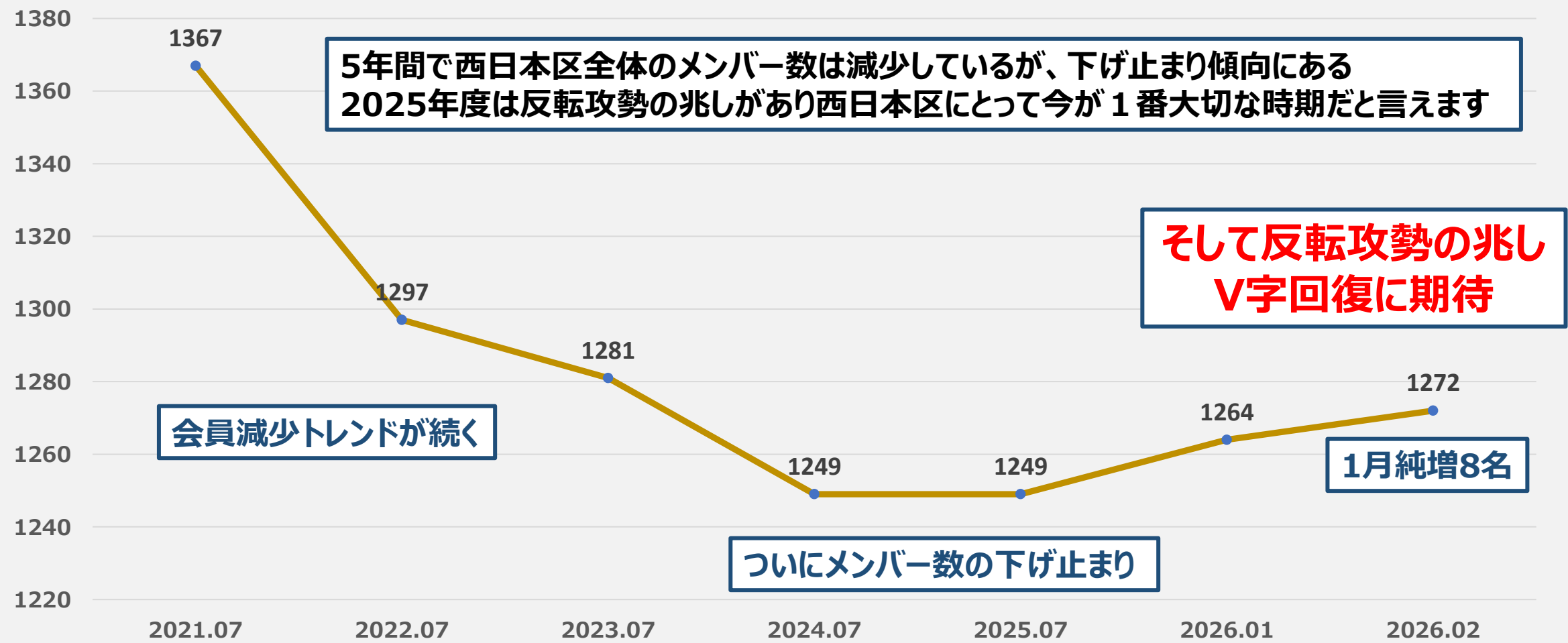
2025年度 上半期会員純増 地域別トレンドマップ°

前期は④増 ②横ばい ③減

後期についても伸ばせるクラブや部は更なる高みを目指してください
西日本区総力戦で頑張りましょう！！

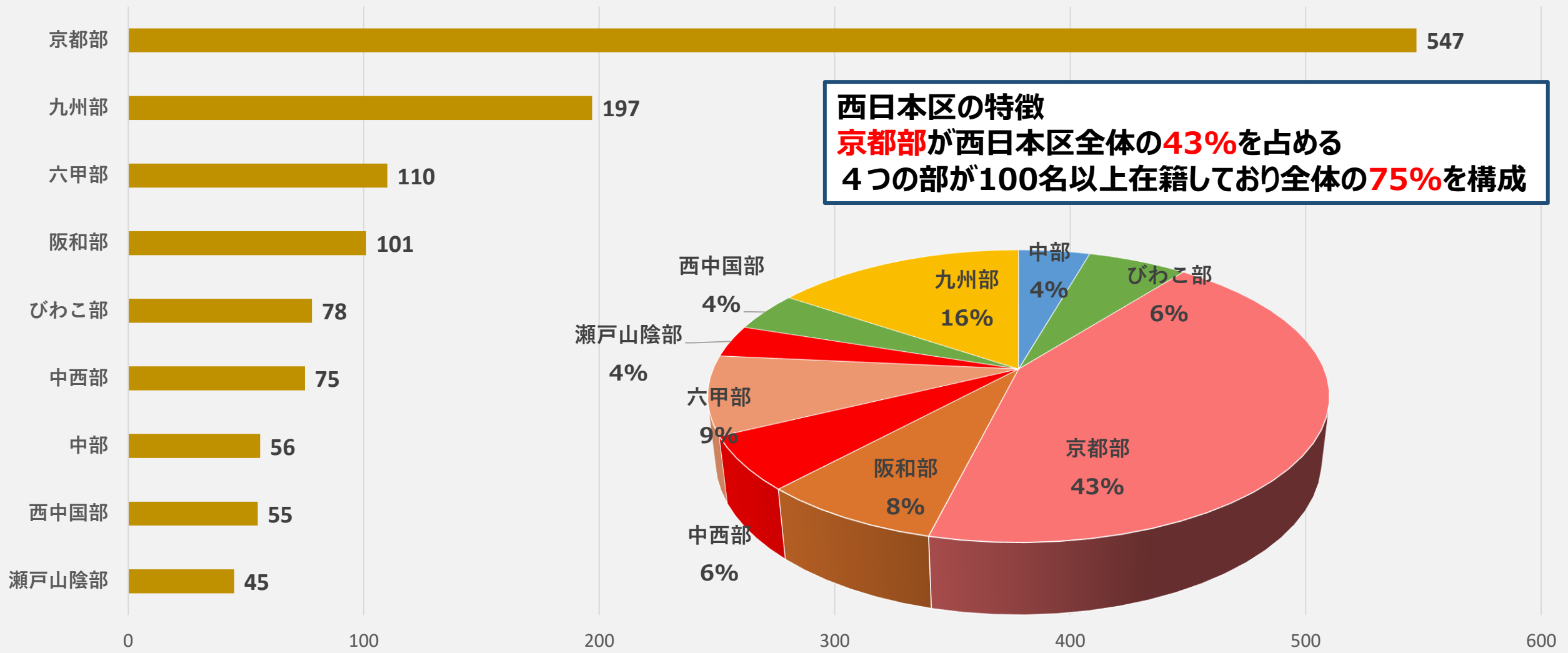


西日本区 5年間の会員数の推移



部別会員数

※2025年度後期半年報資料



5年間で29%のメンバー減少：危機的状況の可視化



2021年度の83名から、2025年度前期時点で59名まで縮小。
わずか5年で組織規模の約3割を失っている。

クラブ別メンバー数推移 全データ（2021-2025）

クラブ名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
金沢	6	8	7	4	6
名古屋	19	19	18	18	16
名古屋東海	20	18	18	17	15
名古屋南山	7	7	0	0	0
名古屋グランパス	15	14	13	12	10
とやま	16	17	14	13	12
合計	83	83	70	64	59

2025年度前期 現在の勢力図（総数: 59名）



名古屋・名古屋東海の2クラブで全体の過半数を占める構造は変わらないが、
どのクラブも規模が縮小しており、単独での事業維持が難しくなりつつある。

エグゼクティブ・サマリー：5年間の活動における重要指標

29% 減
組織規模の縮小

2021年度の83名から、
2025年度は59名へと24名
減少。組織規模は約3分の2
に縮小しました。

2023 年度
変化の分岐点

2022年度までは83名を維持
していましたが、2023年度
に名古屋南山クラブの消失
と他クラブの減少が重なり、
1年間で13名の急落を記録
しました。

継続中
止まらぬ自然減

特定クラブの解散を除いて
も、既存クラブの多くでメ
ンバー数が漸減傾向にあ
り、底打ちの兆しが見えて
いません。

エグゼクティブ・サマリー：減少の底を打ち、再成長フェーズへ

長期的減少トレンド

89 → 74

2021年度の89名から2024年度の74名まで、過去4年間でメンバー総数は継続的に減少していました。

2025年度後期のV字回復

+5名

73名 → 78名

2025年度前期（73名）を底とし、後期には78名へと回復。前期比で+5名の純増を達成する見込みです。

牽引する3つのクラブ

+4 +3 +1

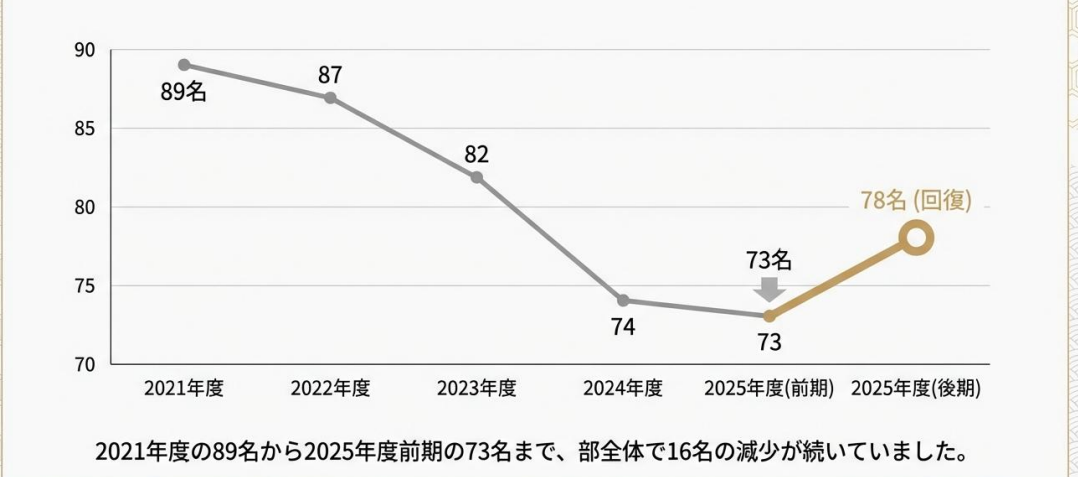
滋賀蒲生野 長浜 高島

この回復は主に、滋賀蒲生野（+4）、長浜（+3）、高島（+1）の3クラブにおける積極的な増員が寄与しています。

【資料】クラブ別メンバー数推移データ一覧（2021-2025）

クラブ名	2021	2022	2023	2024	2025前期	2025後期	増減
近江八幡	19	19	19	17	18	17	-1
彦根	8	7	7	7	6	6	0
彦根シャトー	24	24	19	18	19	17	-2
長浜	20	19	20	13	12	15	+3
滋賀蒲生野	12	13	12	13	10	14	+4
高島	6	5	5	6	8	9	+1
合計	89	87	82	74	73	78	+5

過去4年間の継続的な減少トレンドが、今期初めて底を打ちました。



成長ドライバー：回復を牽引する3クラブ

2025年度後期において、以下の3クラブがメンバー増強に成功し、びわこ部全体の数値を押し上げました。特に滋賀蒲生野クラブと長浜クラブの伸びが顕著です。

滋賀蒲生野

10名 → 14名 (+4)

Top Performer

長浜

12名 → 15名 (+3)

2024年度の13名からV字回復。

高島

8名 → 9名 (+1)

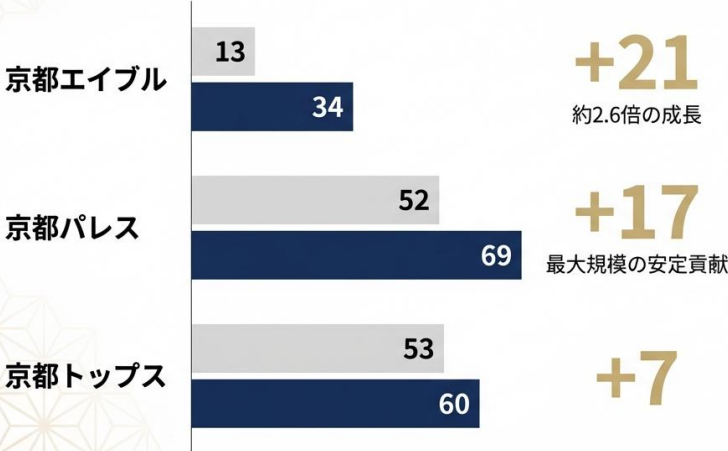
着実な成長。

京都部は「V字回復」を遂げ、過去5年間で最多の会員数を達成



- 2022年度の497名を底に、京都部は力強い回復基調にある。
- 一部クラブの解散や減少があったものの、主力クラブの大幅な増員が全体を牽引。
- 現在、会員数は2021年度（507名）を超え、過去5年で最高水準にある。

成長の原動力：京都パレスと京都エイブルが牽引



京都エイブル：
2021年比で約2.6倍の
驚異的な成長。

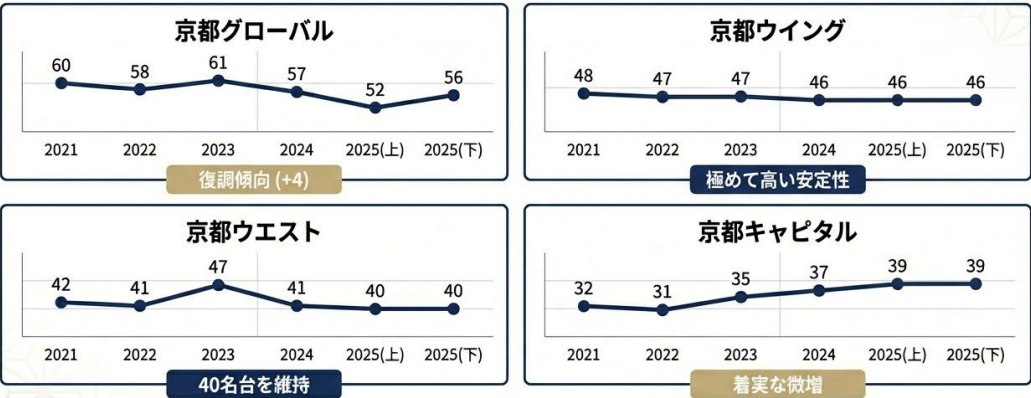
京都パレス：
常に50名以上の規模を維
持しつつ、さらに17名
を上積みし、部全体の
安定基盤となっている。

2022年の減少局面を脱し、持続的な成長トレンドへ



2023年度に500名台を回復して以降、安定した増加傾向を維持している。

組織の安定基盤：一貫した数値を維持する中核クラブ



京都ウイング、京都ウエストなどは変動が少なく、部の運営において計算できる安定した基盤を提供している。京都グローバルは一時減少したが、2025年後期～後期で+4名の復調を見せた。

2024年の底打ちを経て、メンバー数はV字回復の基調にある

現状 (Status)

2025年度（後期）のメンバー数は101名。
2024年度の最低値（96名）から+5名の回復を達成。

傾向 (Trend)

2021-2023年にかけて緩やかな減少傾向にあったが、2025年度前期に大きく反転。

要因 (Drivers)

「和歌山紀の川」の継続的な成長と、「大阪長野」の危機からの脱却が全体の数値を牽引。

101↑+5

2025年度 メンバー数

対2024年度（底値）比

2023年度の底打ち（96名）から、
2021年度水準への急速な回帰



データ参照：クラブ別メンバー数一覧（2021-2025）

クラブ名	21前期	22前期	23前期	24前期	25前期	25後期	増減
和歌山	15	17	17	17	17	17	0
奈良	17	18	17	16	17	16	-1
大阪サウス	17	16	18	16	17	16	-1
大阪河内	9	9	8	8	8	8	0
大阪長野	7	6	2	3	5	5	0
大阪泉北	23	21	18	17	18	18	0
和歌山紀の川	17	18	18	19	21	21	0
合計	105	105	98	96	103	101	-2

7クラブの動向：成長、安定、そして変動



【中西部】EMCトピックス 2021-2025

エグゼクティブサマリー：地域メンバー数は「75名」で底打ちし、完全な安定期へ

75名

2025年度後期 現在メンバー数

±0

直近半期での増減

3期連続

75名を維持している期間

- 2021年度の96名から減少傾向にあったが、2023年度に75名となって以降、2024年度、2025年度（前期・後期）と全く同数を維持している。
- 地域全体としての「メンバー減少」は止まり、強固な岩盤支持層が形成されている状態である。

参考データ：クラブ別メンバー数推移一覧

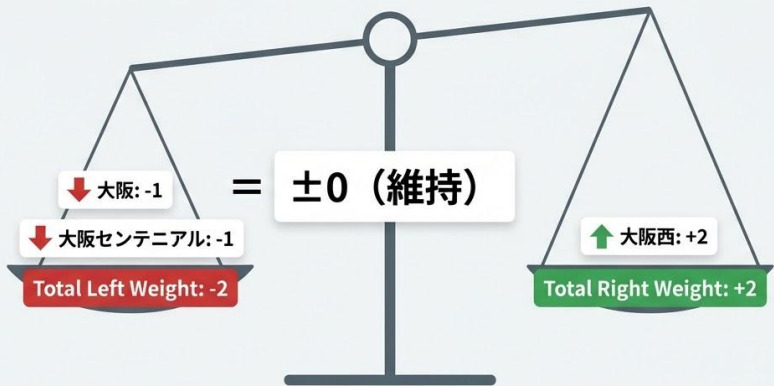
クラブ名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025前期	2025後期	直近増減
大阪	14	15	13	12	13	12	-1
大阪土佐堀	13	13	13	12	10	10	0
大阪高槻	11	0	0	0	0	0	0
大阪センテニアル	17	14	12	9	11	10	-1
大阪西	15	15	12	13	13	15	+2
大阪茨木	12	11	11	13	14	14	0
大阪なかのしま	14	14	14	16	14	14	0
合計	96	82	75	75	75	75	0

地域全体トレンド：構造的な減少を経て、75名の定常状態へ移行



過去3年間、地域全体の合計人数は「75名」から1名の変動もなく推移しており、極めて高い安定性を示している。

2025年度 前期vs後期：大阪西の躍進が減少分を相殺



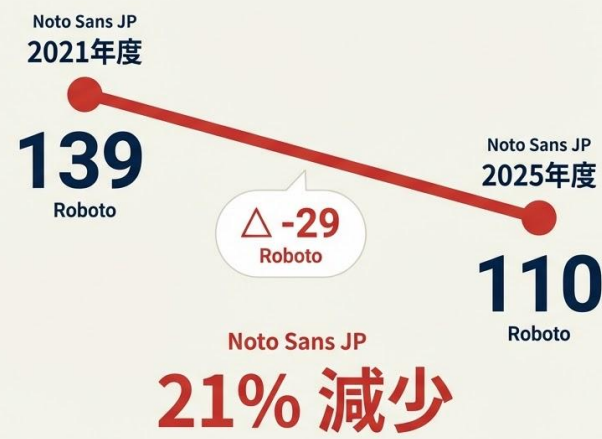
大阪西クラブの2名増が、他2クラブの減少分を完全にカバーし、地域全体の数値を維持した。

大阪土佐堀、大阪茨木、大阪なかのしまは増減なし

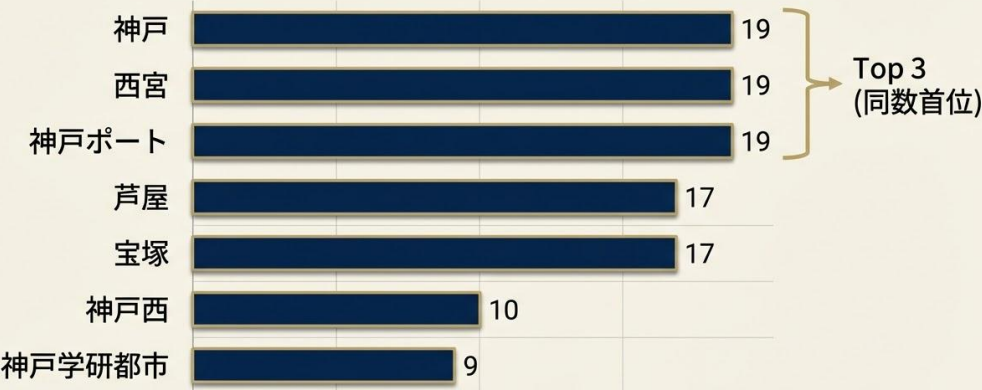
【六甲部】EMCトピックス 2021-2025

過去5年間で、六甲部全体として約21%のメンバー減少が見られます。

2021年度の139名から、
2025年度後期時点で110名
へと縮小しました。
この減少傾向は組織全体に
とって重要な課題です。

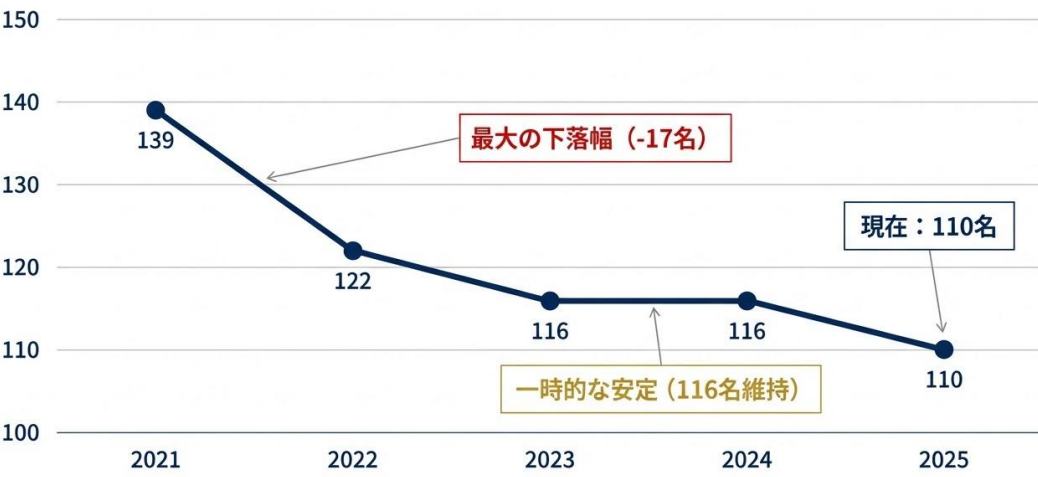


現在の六甲部構成（2025年度後期メンバー数）



六甲部全体：5年間のメンバー数推移

2021年の139名から2025年の110名へと、5年間で29名の純減（-21%）となりました。



参考資料：メンバー数推移データ一覧

Noto Sans JP	2021	2022	2023	2024	2025前	2025後	増減
神戸	22	17	16	21	19	19	0
西宮	22	22	21	20	20	19	-1
神戸西	11	11	11	12	10	10	0
神戸ポート	22	23	23	21	19	19	0
宝塚	20	20	17	15	16	17	1
さんだ	8	0	0	0	0	0	0
神戸学研都市	16	12	11	9	9	9	0
芦屋	18	17	17	18	17	17	0
合計	139	122	116	116	110	110	0

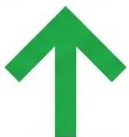
45

2025年度 後期 現在メンバー総数

-1

2021年度比（46名 → 45名）

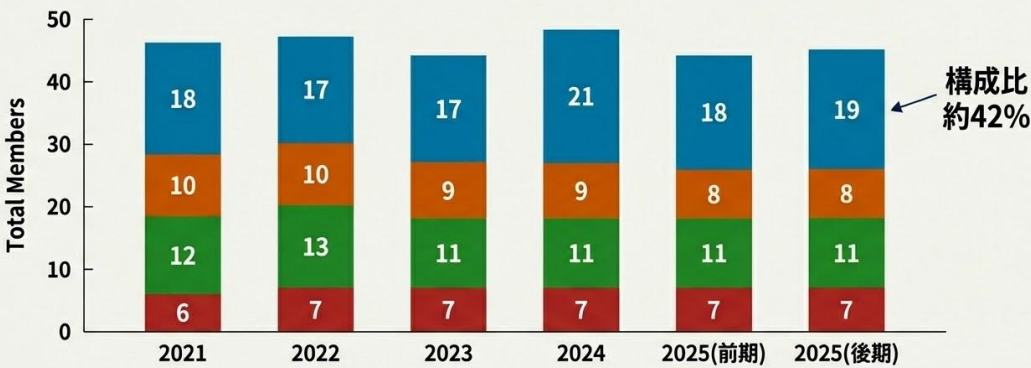
5年間でほぼ横ばいの推移を維持。



2025年度 前期から後期にかけて +1名の純増（岡山クラブ）。

Shippori Mincho 減少トレンドからの反転。

クラブ別構成比と変動要因の特定

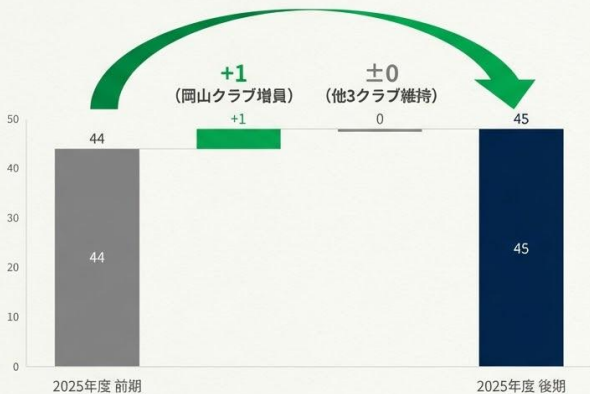


メンバー数の約4割を占める「岡山」の動向が、部全体の数値に最も大きな影響を与えている。他3クラブは小幅な変動、あるいは横ばいで推移。

データ詳細：年度別・クラブ別メンバー数一覧

部	クラブ名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (前期)	2025年度 (後期)	2025年度 増減
瀬戸山陰部	姫路	6	7	7	7	7	7	0
瀬戸山陰部	岡山	18	17	17	21	18	19	+1
瀬戸山陰部	姫路グローバル	10	10	9	9	8	8	0
瀬戸山陰部	米子	12	13	11	11	11	11	0
合計		46	47	44	48	44	45	+1

2025年度 後期に向けた好転



2025年度は、他クラブが現状を維持する中、岡山クラブの1名増員が部全体のプラス成長を牽引した。ポジティブなモメンタム（勢い）を持って後期活動へ移行する。

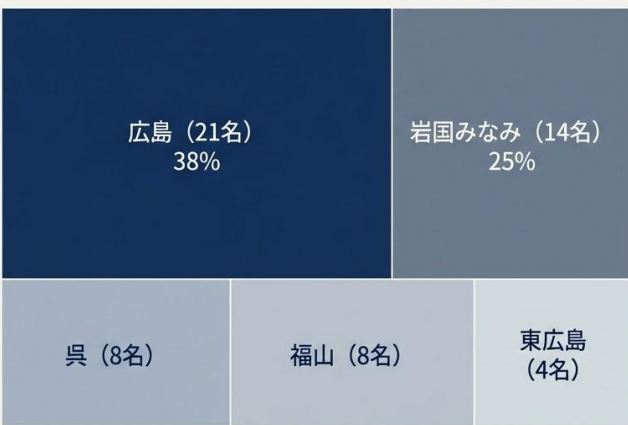
Executive Summary

5年間の全体トレンドは微減傾向。直近の変化は福山クラブの調整局面に起因



- 長期トレンド: 2021年の61名から緩やかな減少トレンド。
- 短期変動: 2025年度前期（57名）から後期（55名）への変化は、全クラブ中「福山クラブ」の減少分（-2名）のみが影響。他クラブは横ばいを維持。
- 構造: 広島クラブが全体の約4割を占める安定基盤となっている一方、成長ドライバであった福山クラブに動きが見られる。

クラブ別構成比：広島クラブが全体の約4割を占める「安定の軸」



Insights

最大勢力: 広島クラブ（21名）が地域全体の最大シェアを保持。

第2グループ: 岩国みなみ（14名）が続く。

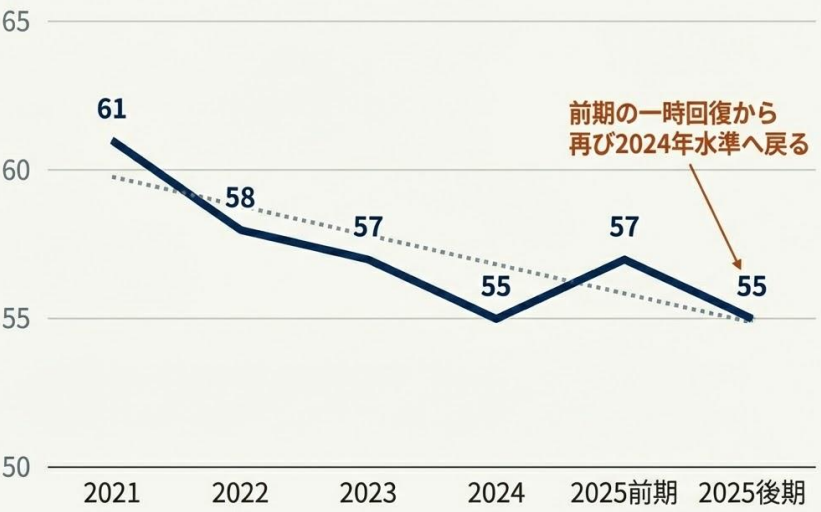
第3グループ: 呉と福山が同数（8名）で並び、東広島（4名）が小規模精鋭として構成。

データ・アペンディクス：詳細数値一覧

クラブ名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025前期	2025後期	直近増減
広島	24	21	21	21	21	21	0
福山	3	6	7	9	10	8	-2
呉	11	10	11	9	8	8	0
東広島	5	4	4	3	4	4	0
岩国みなみ	18	17	14	13	14	14	0
合計	61	58	57	55	57	55	-2

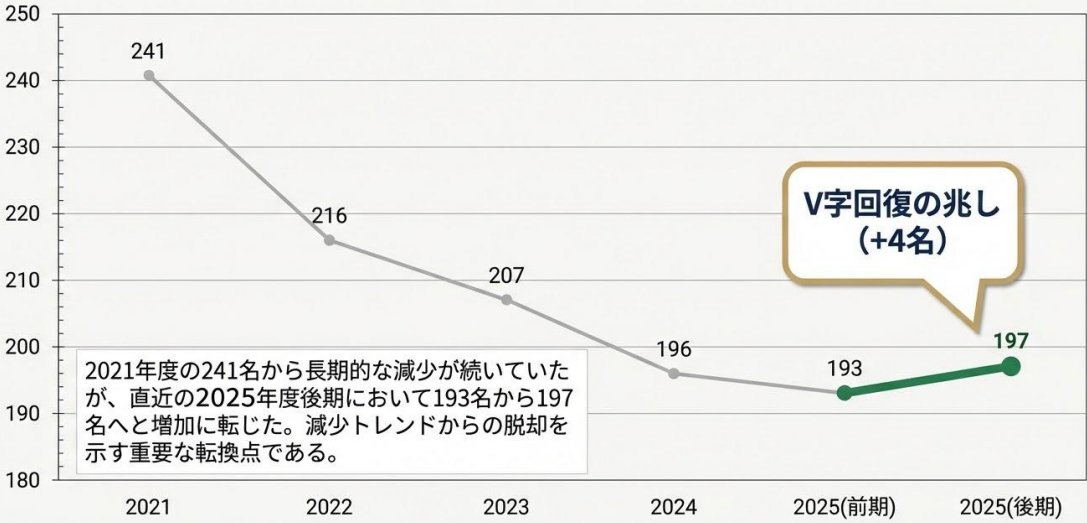
Source: ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区 メンバー数の推移データ

地域全体：2021年をピークとした緩やかな縮小傾向

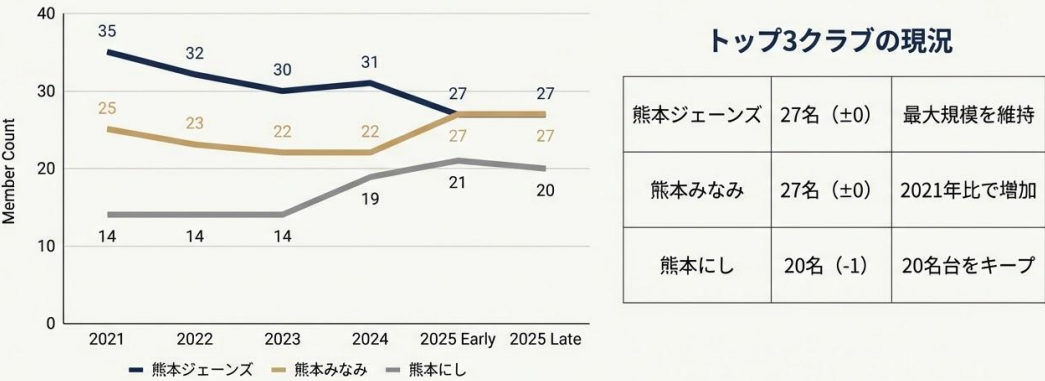


西中国部全体の総数は、2021年度の61名を基準に、55～58名のレンジで推移している。2025年度前期に一時的な回復を見せものの、後期には再び2024年度水準の55名に着地した。

5年間の減少傾向が底を打ち、2025年度後期で初の純増（+4名）を記録



九州部の基盤を支える大規模クラブの動向

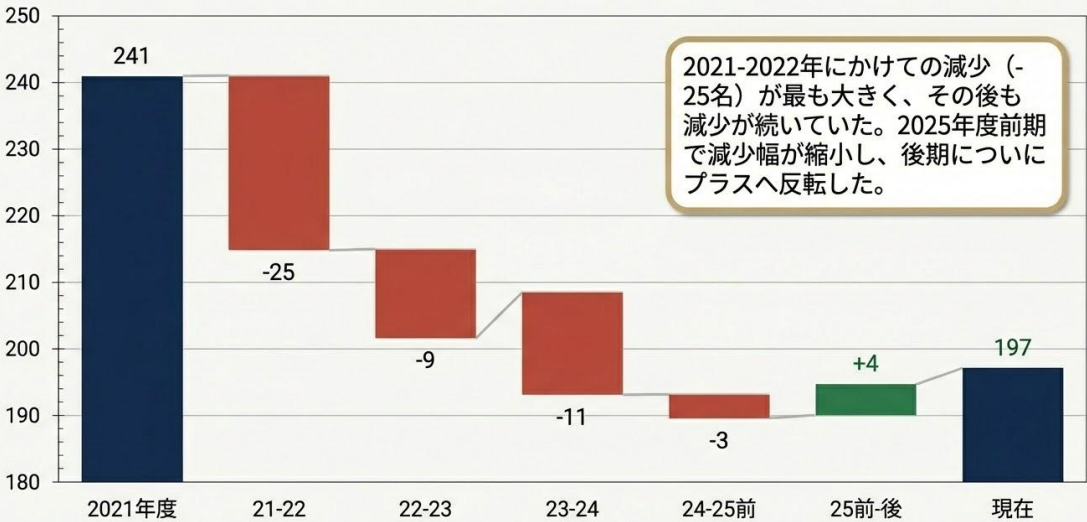


トップ3クラブの現況

熊本ジェーンズ	27名（±0）	最大規模を維持
熊本みなみ	27名（±0）	2021年比で増加
熊本にし	20名（-1）	20名台をキープ

これら上位3クラブで全体の約38%（74名）を占めており、この層の安定が九州部全体の安定に直結している。

年度別増減数：過去最大の減少幅を乗り越え、プラス成長へ転換



付録：詳細データ一覧

クラブ名	2021	2022	2023	2024	2025前期	2025後期	増減
長崎	4	4	4	4	2025前期	2025後期	▶ 0
熊本	24	23	22	20	18	19	▲ +1
北九州	7	6	5	5	3	3	▶ 0
福岡中央	13	13	13	9	10	12	▲ +2
熊本ジェーンズ	35	32	30	31	27	27	▶ 0
八代	8	8	9	9	9	10	▲ +1
鹿児島	10	9	10	9	9	9	▶ 0
熊本むさし	16	16	15	14	16	17	▲ +1
熊本みなみ	25	23	22	22	27	27	▶ 0
宮崎	8	6	0	0	0	0	▶ 0
熊本ひがし	15	11	12	17	14	14	▶ 0
阿蘇	19	14	14	14	14	14	▶ 0
熊本にし	14	14	14	19	21	20	▼ -1
熊本ネクサス	8	0	0	0	0	0	▶ 0
熊本Nスピリット	8	14	14	13	15	17	▲ +2
熊本水前寺	15	12	10	10	10	8	▼ -2
熊本五福	12	11	13	0	0	0	▶ 0
合計	241	216	207	196	193	197	▲ +4

最後まで読んでいただきありがとうございます

今期も残すところ4カ月

何としても、最低1人はメンバーを増やして次期へEMCバトンをつなぎたい

こんな思いでいっぱいです

伸ばせるクラブが 伸ばせる部が 更なる高みを目指す

西日本区のメンバーの皆様 お1人お1人のご協力を心よりお願い申し上げます

今こそワイズ魂でV字回復を！！

PS:西日本区HP 資料庫の中に『[寺子屋ワイズの温泉どっぷり論（著者：京都ウエストクラブ 森田恵三ワイズ）](#)』が保管されています。
是非ともお読みいただき各クラブの会員増強に役立ててください。

2026年2月11日

ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区

2025-2026 EMC事業主任 久保田雅彦